和歌山県 中堅・中小企業
DX先進事例集

～和歌山県DXチャレンジサポートプログラムの記録～

2025年5月

和歌山県
公益財団法人 わかやま産業振興財団

ご挨拶

急速に変化する社会の中、県内企業がデータとデジタル技術を活用してビジネスモデルを変革するとともに、競争上の優位性を確保することを目指すデジタル・トランスフォーメーション(DX)の実現を支援するため、県では令和４年度より機運醸成・啓発から導入支援まで、一貫支援を行っております。

この中で、県内企業へのDX推進伴走支援事業として「チャレンジサポートプログラム」が実施され、すでに3年間で10社が認定され、成果を得ております。

こうした活動の成果を県内企業で共有し、各社のDX推進活動の参考としていただく目的で、本冊子『和歌山県中堅・中小企業DX先進事例集』を発刊いたしました。

本冊子が、県内企業にとって改革への刺激となり、先進的技術の導入がより一層加速し、和歌山県産業の発展、業務効率の向上、雇用の確保へとつながることを期待いたします。

2025年5月

和歌山県商工労働部

部長　中場 毅

この事例集では、変化の激しいビジネス環境の中で、県内の企業がそれぞれ掲げたVISIONを実現するべく、最新のシステムを導入して業務の改革を図っていく事例が10例記載されております。これらの事例が、皆様の業務の改善に少しでも参考となり、お役に立つことができれば幸いです。

私共は今後とも県内企業の発展のためにこうした情報を共有し、県内企業が手を携えて少子化・ニーズの多様化・エネルギーや原材料の価格高騰といったさまざまな課題を乗り越えていくことに活動の意義を見出しております。

この困難な時代を共に生き抜き、発展していこうではありませんか。

2025年5月

公益財団法人わかやま産業振興財団

専務理事　三龍 正人

掲載事例　（五十音順）

1	株式会社イワハシ	海南市	p. 3
2	河合石灰工業株式会社和歌山工場	和歌山市	p. 5
3	紀和化学工業株式会社	和歌山市	p. 7
4	株式会社玉林園	和歌山市	p. 9
5	有限会社三和金型製作所	和歌山市	p. 11
6	株式会社島精機製作所	和歌山市	p. 13
7	株式会社大和化学工業所	海南市	p. 15
8	中田食品株式会社	田辺市	p. 17
9	株式会社Miki	和歌山市	p. 19
10	株式会社リカーショップゴワ	和歌山市	p. 21

【支援者紹介】

1	紀陽銀行	和歌山市	p. 23
2	株式会社dTosh	京都府	p. 24
3	和歌山大学	和歌山市	p. 25

「DXは一日にして成らず」

～「DXチャレンジサポートプログラム」への参加のお勧め～

近年、県内でも多くのDX成功事例が生まれております。しかし、どの企業も最初から順風満帆だったわけではありません。「何から始めればいいのか分からない」という状態から、自社の現状を深く見つめ直し、試行錯誤を重ねながら未来像が描かれてきました。時には計画を見直し、ゼロからの再出発を余儀なくされることも。それでもなお挑戦を続けられたからこそ、新たな可能性を見出すことができたのです。

事例集に掲載された成功事例を見られると「自社には無理だ」と最初は感じるかもしれません。しかし、成功事例の企業もまた同じ思いでスタートされました。そして、「DXチャレンジサポートプログラム」によって少しずつ積み重ねられた結果、大きな成果へと至っております。

ローマは一日にして成らず。DXもまた、一歩ずつの積み重ねが自社の未来を創ると信じております。

「DXチャレンジサポートプログラム」は、これからも県内企業のDXへの挑戦を支えてまいります。

1 技術と品質で世界に羽ばたく
～環境・健康にやさしい日用品から精密機械部品まで～

会社概要

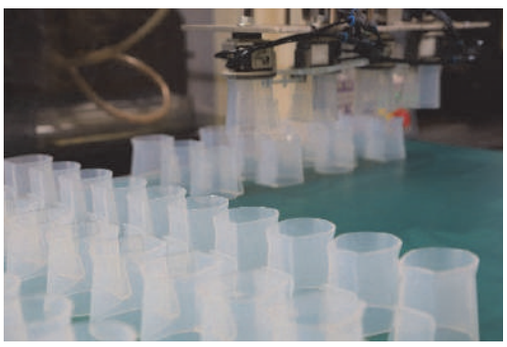
会 社 名　：株式会社イワハシ
代表取締役：岩橋　秀昭
事業内容　：プラスチック製品製造加工
従業員数　：49名
所 在 地　：海南市孟子850

目指す姿・VISION

◆ 理念：
顧客・取引先・働き手・会社という
ステークホルダーに、真に四方良しの
企業であり続けること。

◆ MISSION：
技術と品質で世界に出るものづくり
企業となること。

◆ VISION ：
品質と生産効率性の追求
工程や生産性の見える化とその結果が改善
に活かされ生産性が自律的に改善向上する
ようなサイクルが実現すること。



当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 当社はプラスチック製品の製造・加工において、大ロットの100円均一商品からオーダーメイドの多品種小ロット製品、および高品質の精密機械部品まで顧客のさまざまなニーズに対応可能な、高い技術力・生産力を有している。

◆ 環境・安全面においてもバイオマス樹脂や抗菌樹脂、再生樹脂等多様な原材料を自在に活用し、顧客の多様なニーズに対応できる、デザイン・射出成形・組立完成・包装・配送までの一貫生産体制をとっている。

◆ 近年、顧客の嗜好が一層多様化し、商品サイクルも短くなっているため、多品種小ロット化がますます強まる一方、樹脂原料価格やエネルギーコストの上昇が激しく、生産性向上による競争力確保が急務となっている。

◆ また製品も環境負荷低減素材を使った製品の製造等、付加価値の一層の向上や事業の持続性の保持が重要となっている。

VISION達成の手段

◆ 業務の属人化を解消し平準化を図る。
- 社内ERPの構築。
- 生産性の見える化。
- バックオフィスの自動化。

◆ 現場作業のデータ化および自動化設備の導入。
- 社内コミュニケーションツールの導入。
- 射出成形条件等コアデータの収集・共有。
- 検品作業等のシステム化。

◆ デジタル人材の育成・組織風土形成。
- DX推進人材の育成。
- 新人事評価制度の導入。
- 部門別目標制度の導入。

これまでの取り組み

◆ システム・アプリ・ツールを全社で導入した。
- 基盤システムは外部委託で構築、データ集約の仕組みは内製化。
- 製造工程のIoTによる稼働率・生産性の見える化は完了。
- 社内データダッシュボードでデータを共有。
- 社内コミュニケーションツールの構築 (LINEワークス導入)。
- 生産管理システム・社内受注管理システムを構築。

◆ 新規ビジネスの創出。
- 持続可能な社会の形成、循環型社会の実現に貢献するため、専門設備を導入して、CO2排出量が少なく、一部生分解性も有るバイオマスプラスチックや、リサイクルプラスチックなど、環境負荷低減素材を使った製品製造を強化拡大。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ DXに向けての社内の取り組みに対して、支援者からの壁打ち的な意見を得ることができた。

支援者コメント

◆ イワハシ様の取り組み事例は、製造業の現場が直面する課題をリアルに描き出しており、他の会社様にとってロールモデルとなる好事例だと思います。全社一丸となって DX の計画から実行までを段階的に進め、課題解決に取り組まれているその姿勢は、今後も着実に成果を上げていかれるものと確信しています。 (紀陽銀行　岡本)

2 大型竪型石灰焼成炉自動制御技術の開発

会社概要

会 社 名　：河合石灰工業株式会社
　　和歌山工場
代表取締役：河合　伸泰
事業内容　：石灰およびその加工品の製造販売
従業員数　：200名（和歌山工場23名）
所 在 地　：和歌山市湊1850

目指す姿・VISION

- ◆ 石灰焼成炉の操炉自動化による、量と品質の安定した製品の最適な供給の維持。
- ◆ 24時間365日間 ダウンタイムの撲滅

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

- ◆ 当社和歌山工場は、生石灰日産能力300 t/日のメルツ式石灰焼成炉 (竪型)、および日産能力100 t/日のK.H.D.式石灰焼成炉 (竪型)を有する24時間365日稼働の大型生石灰焼成工場である。
- ◆ 工場は日本製鉄株式会社関西製鉄所殿和歌山地区構内に位置し、製品は全量製鉄所の高炉・電炉・転炉にリアルタイムで供給される。
- ◆ 生石灰は、製鉄炉内ではスラグとなり、溶鉄・溶鋼内の不純物の除去に供される。このため、製鉄所の安定稼働を維持するために、焼成度 (CaO率)、粒度等、高い品質の製品を安定して供給する責任がある。
- ◆ 原料の石灰石は竪型焼成炉の炉頂部までコンベアで搬送され、炉内に装入される。炉内に1200 ℃の熱風を吹き込むことにより、石灰石 ($CaCO_3$)が熱分解して生石灰 (CaO)となる。発生した二酸化炭素 (CO_2)は炉頂部より排気される。

- ◆ 現在の問題点は、焼成炉の制御には未だ職人技に頼っている部分があることであり、属人化を解消し、作業の標準化を行う必要がある。
- ◆ また連続稼働を実現するための設備保全体制が不十分であることも問題となっている。

VISION達成の手段

◆ DX推進体制の構築：
- 工場長 (リーダー)、生産課代表、管理課代表によるDX推進グループを発足し、VISIONを定め、DX推進体制を整備した。
- VISION達成のための5か年DX計画を策定し、変革のガイドラインとした。

第1ステップ
デジタルインフラの強化
- グループウェア強化
- 遠隔センサー導入
- データベースの強化

第2ステップ
生産管理システムの導入
- 業務の見える化
- 自動データ採取
- ビジネスインテリジェンス化

第3ステップ
蓄積データの活用
- 原単位改善
- 操炉自動化

これまでの取り組み

◆ デジタルインフラの強化による手入力業務の自動データ化：
- 業務アプリ作成ツール：現在利用中のグループウェア「desknet's Neo」((株)ネオジャパン)の機能の一部である、ノーコード業務アプリ作成ツール「AppSuite」の活用。
- AI-OCR　：計量伝票のAI-OCR読み取り・自動入力。
- 監視カメラ　：取引用カウンターの監視カメラ録画化による休日出勤の解消。
- 遠隔センサー：遠隔センサー導入による現場日常点検の省力。

業務アプリ作成ツール | AI-OCR | 監視カメラ | 遠隔センサー

↓

自動データ化

◆ 自動データ化により作業者の時間を捻出し、改善と教育機会が創出され、DX推進を加速する。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ ビジョンが明確になり、少しずつですが一歩ずつ進んでいると感じられます。
新しいテクノロジーやデジタル化の知識に触れる機会を得られたことを有難く思います。
今回DXを進めてゆくなかで、挑戦することの大切さを改めて実感しました。
DXの推進を通じてさらなる成長と、地域の発展に少しでも貢献していければと考えております。

支援者コメント

◆ 河合石灰工業様は、将来の労働力不足という喫緊の課題に対し、DXを事業継続に不可欠な戦略と明確に位置づけられました。現場の負担軽減と、現場自身が改善を進める文化の醸成という両面からアプローチすることで、単なる効率化に留まらず、持続可能な組織変革への着実な一歩を踏み出された点は、特に素晴らしいと感じています。

（株式会社dTosh 平井、廣田、和歌山大学 満田）

3 生活空間のあらゆる場面に彩りを
～多品種少量生産時代の生産性向上～

会社概要

会 社 名　：紀和化学工業株式会社
代表取締役：前川　俊次
事業内容　：染料、顔料、インクの製造販売
　　反射シート・機能性フィルムの製造販売
従業員数　：151名
所 在 地　：和歌山市南田辺丁33

目指す姿・VISION

◆ 全社の見える化により、生産効率を改善し生産量および利益を最大化する。
- 付加価値作業率の向上
- 組織風土の変革
- 製品不良ゼロ

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 当社は高い技術力や生産技術に基づいた製品の開発・製造を生業としてきた。
◆ フィルム事業では、高性能の特殊反射フィルムが、自動車のナンバープレートや道路標識に広く採用され、競合他社の新規参入を阻み、当社事業の安定した柱となっている。特に広幅でミクロンオーダーの薄膜製造技術は溶液温度、冷却条件等、繊細な設定を要し、他社の追随を許さない。
◆ 染料事業では、さまざまな種類の繊維に適した染料が約1000種類以上も提供され、生活空間のあらゆる場面を彩り、市場の高い評価を維持している。
所望の色合いを得るには顔料成分・温度の変動、繊維の種類、季節による環境温度・湿度の変動等さまざまな要因が調合に影響する。この点においても当社の蓄積されたノウハウは他社製品との差別化に大きく寄与している。
◆ これらの製造技術の一部には、ベテラン社員の勘と経験に頼る作業も残っており、技能伝承のための製造データベースの整備による業務の属人化の解消も急務となっている。

VISION達成の手段

◆ 非付加価値作業の徹底的な圧縮。
・手書き作業の圧縮、転記等の2重作業の廃止。
・情報の共有化、早期顕在化による問題点の早期対応。
・ツールの導入による作業改善の推進。

◆ 徹底した見える化による業務の円滑な遂行、設備可動率の向上。
・生産計画、在庫計画立案のシステム対応化。
・製造実行システムの検討。
・設備稼働率の見える化による可動率の向上。

◆ 支援システムの見直しによる業務プロセスの改革。
・製造実行システム導入による変化変動への対応力の強化。
・現場の実情に見合ったシステム支援。

これまでの取り組み

◆ 勤怠管理システム「勤革時」(NEC社製)の導入。
・勤怠の集計作業が自動化され、勤怠管理の業務負荷が激減した。
・人的ミスが解消した。
・生産計画の変更時に作業者の勤務シフトや配置転換が迅速かつ的確に行われるようになり、生産効率が上昇すると共に作業者の負荷が均質化された。

◆「全社の見える化」を図る目的で、さまざまなツールを導入し、業務の効率向上を図ることができた。

◆ しかし、検討の過程において、現在の旧い基幹システムに欠けている様々な機能があきらかとなり、それらが、非付加価値作業の更なる圧縮、「全社の見える化」実現の障害となっていることが浮き彫りになった。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ DX推進活動の過程において、現状の基幹システムの持つ課題を明確化できた。

◆ 課題に対しての対策についてその実効性や現実性についての深堀りが、期間中には充分にできなかった。

支援者コメント

◆ フィルム事業部における DX に取り組み、全部署を挙げて検討を進められました。目指す姿を明確にし、達成に向けた手順を定め、具体的な課題を洗い出されました。ご担当者様の感想として、「期間的な制約で課題に対する対策が充分に深掘りできなかった」とのことですが、DX は一過性ではなく継続していくもの。絶えることなく、一つ一つ着実に取り組まれることでしょう。 (紀陽銀行　和田)

4 時代を乗り越えてきた先人の知恵と デジタルの力で未来を創造

会社概要

会 社 名　：株式会社玉林園
代表取締役：林　和宏
事業内容　：茶卸、飲食店、食品製造
従業員数　：143名
所 在 地　：和歌山市出島48-1

目指す姿・VISION

◆ ロープライス・ハイバリューを目指し、お子様からお年寄りまで全てのお客様にご満足いただける商品を開発・提供する。

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 171年の歴史を持つ当社の強みは、品質へのこだわりを基本に、顧客ニーズに対応した新商品の開発力、新商品を武器とした新市場の開拓力、それを新事業として立ち上げる変革力、の三つの力にある。

- 1854年　(安政元年)創業、たばこ・茶の製造販売、塩干類の販売開始。
- 1904年　煙草専売法が施行される。
- 1913年　刻み煙草から紙巻き煙草への変化とともに業態を絞り、**茶の販売専業体制**とする。
  店頭で本石臼で碾茶を碾く高品質の抹茶を顧客に提供 (現在も継承)。
- 1945年　和歌山大空襲により店舗焼失。
- 1958年　夏季の茶の売り上げの低下を補う目的で、世界初の抹茶入りソフトクリーム**「グリーンソフト」を開発**し販売開始、好評価を得て2年後、グリーンソフト専用のグリーンコーナーを開設し、チェーンストアを全国各地に展開。
- 1962年　抹茶購入の主な顧客である婦人層を対象に、あっさり味の中華そば (現在の「**てんかけラーメン**® 」)および**明石焼き**を商品開発し来店者に提供開始。
  事業の**第2の柱として飲食店事業**への事業展開を推進する
  (現在、県内6店舗営業)。
- 1993年　グリーンソフトミックス液を開発、全国の外食産業への卸売事業を開始。ファミリーレストラン・回転すし・ハンバーガーチェーン・テーマパーク等の**外食産業市場**を開拓。新規事業の基礎を構築。
- 2005年　玉林園ブランドのアイスクリームを全国販売開始。
- 2006年　取引先の外食産業からのさまざまな要求に応え、液状抹茶、デザートソース・ムース等の菓子材料を販売開始。以降、外食産業からの企画提案によるオーダー注文が増加し、顧客からの提案に対するリアルタイムな試作対応を可能とする社内体制を整備した結果、全国の大口顧客との菓子開発の**協創体制**が拡充し、事業の**第3の柱**として大きく飛躍拡大している。

てんかけラーメン®

◆ 現在の課題は、量産品と多品種少量生産品とが混在する工場の生産性向上、および紙媒体の多いバックオフィス業務の効率化である。

VISION達成の手段

◆ 工場の生産効率の向上
・2025年、新工場の建設により、量産品を新工場に分離移行し、自動化による生産性向上を図る。現工場は多品種少量生産品に集中する。

◆ 紙媒体中心のバックオフィス業務の効率化
・FAXや郵便を多用し、手入力により時間と手間をかけて行っているバックオフィス業務をデジタル化により効率化する。

◆ 新商品・新サービス開発体制の強化
・当社の強みである開発体制 (営業部内に専門開発チーム5名配置)を強化し、顧客とのパートナーシップを強固にしていく。

これまでの取り組み

◆ 基幹システムの更改・運用定着
・基幹システムの更改によるペーパーレス化の運用定着
・請求書のデジタル化

◆ 店舗発注のデジタル化・RPA活用
・店舗からの発注をFAXからメールへ
・発注メールから受注データへの自動展開
・出荷表等各種帳票の自動作成

◆ 効果
・店舗閉店時の在庫をベースにした発注メールを各店舗から受信。RPAが自動作成した受注データに基づき、翌日直ちに生産を開始することが可能となった。
・同時に各店舗の在庫管理の精度も向上し、在庫が適正化された。
・これらの結果、業務効率が向上し、スタッフの休日出勤が解消された。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ 内側からだけでなく、自社ではなかなか気付きづらい外側からの目線で、より専門的なアドバイスをして頂けた事もあり、現在抱えている問題点の明確化や目に見えるほどの改善が出来ました。
今後も、少しずつでも立ち止まる事無く、DXを活用し改善して行きたいと思います。

支援者コメント

◆ 玉林園様は「あまり上段に構えず、まずはシンプルにITを利用して課題解決へ取り組む」という 基本方針でDX計画書を策定されたことが良かったと感じています。計画を実行するなかで、環境も変化していくので、柔軟かつ臨機応変にブラッシュアップしながら、ありたい姿に近づかれることを願っています。 (紀陽銀行 宮本)

5 地方の町工場がDXにチャレンジ！

会社概要

会 社 名　：有限会社三和金型製作所
代表取締役：山本　浩之
事業内容　：金属部品切削加工
従業員数　：5名
所 在 地　：和歌山市中島552-3

目指す姿・VISION

◆『みんなが気軽に来てくれる会社になる (加工屋)』
◆ 顧客との「親近性」「共感性」「信頼性」～明るく雰囲気の良い、話しやすく頼りになるパートナー～

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 地場 (和歌山・大阪・奈良)の工作機械メーカーから機械のカスタマイズに必要な規格外の特注部品を受注。一品一様の高品質な部品を短納期で納品できることから、多数の顧客から深い信頼を得ている。
◆ 当社は、汎用工作機械を用いて、職人が注文に応じてひとつひとつ切削加工をしている。取り扱う切削材料も炭素鋼・ステンレス鋼・鋳鉄と幅広く、特に切削時に大量の超微粉が発生するために自動加工機が不得手とする、マルテンサイト系ステンレス鋼や鋳鉄の加工に独自のノウハウを有している。
◆ また、古い工作機械を使っている地場の金属加工メーカーからの修理用部品や消耗品の製作依頼にも一部対応している。
◆ さらに、漆塗りの金属文鎮など当社のオリジナル製品も製造し、EC経由で販売、好評を得ている。
◆ 問題点は顧客ごとに異なる「注文書 (受注形態)」「納品処理・形態」、および受注品の「納期調整」「生産進捗確認」等の付帯業務が多く対応に追われ、しばしば現場の業務が滞ることである。
◆ 付帯業務が滞ると「本質＝ものづくり」に集中できない。これが、納期遅れ、材料間違い、不具合発生等につながり、顧客に迷惑をかけるだけではなく、職人の負荷も増す。
具体的には：
・ 緊急品受注による割り込み生産
　＝優先度の曖昧さ
・ 職人の負荷状況の不透明さ
　＝予測の不確実性と心理的負荷、社内の雰囲気悪化
・ 情報共有不足による意思決定の遅れと業務効率低下
・ 頻繁な生産計画変更・納期調整に伴う対応の煩雑化

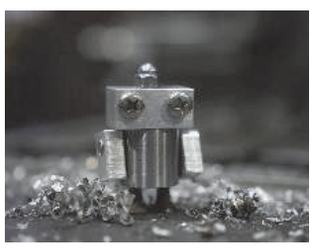
「幸せのペーパーウエイト」
表面は黒江塗 (紀州漆器)

VISION達成の手段

- ◆ 付帯業務の改善・効率化による
  本業への集中。(ヒト・モノ・コトの管理)
- ◆ 「低工数・低負荷」での入力で、
  多くの「見える情報」を共有するシステムの構築。

これまでの取り組み

- ◆ 生産状況の見える化
  - ・ 2024年2月に導入していた、クラウド型の図面管理ツール「ズメーン」（(株) FactBase)を活用し機能拡張を図った。
  - ・ FactBase社と緊密に連携をとり、「ズメーン」により生産状況が見える化できるようにツールの活用方法を検討・改善した。
  - ・ これにより、職人が、納期・優先順位・作業負荷・進捗・製品形状を、工場のタブレットや携帯電話で一体的にいつでも把握できるようになり、受注から出荷までの見える化と情報の共有化が実現された。
  - ・ 手書きの図面やFAXで送られてきた図面などの紙ベースの図面と、CADソフトなどで製図したデジタル図面とが区別なくまとめてデータ管理が可能となった。過去の図面上の手書きのコメントも簡単に検索し参照できるようになった。



- ◆ システム改善の成果が現われ、無駄に職人の手をとめてしまうことが減った。
  - ・ 材料入荷確認・図面改訂・納期日程調整など
- ◆ 今後これらのツールを活用して
  - ・ 柔軟な生産管理/付帯業務の効率化
  - ・ 生産計画からの工数予実管理
  - ・ 受注予測による在庫の適正化
  - ・ 材料価格推移の見える化による見積価格の適正化
  - ・ 受注率の向上

  の実現を目指す。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

- ◆ まずは一歩踏み出せたことが良かった。いろいろな視点からアドバイスをいただけたので新たな発見がたくさんあり、勉強になった。半年の伴走支援期間は少し短かった。たくさんのやりたいことが出てきており、いま終了するのは残念です。

支援者コメント

- ◆ 三和金型製作所様は、「ものづくり」という本質的な業務に集中するため、「社員全員が安心して働ける会社」という明確なビジョンを掲げDXに取り組まれました。限られたリソースの中で、自社に合った手段を模索する柔軟な発想と、職人の皆様が主体的に変化を受け入れ始めたプロセスは、「小さな一歩」が組織を動かす力となることを示す好例だと感じています。　　(株式会社dTosh 平井、廣田、和歌山大学 伊原)

6 創造の力で未来に幸せを
～世の中になくてはならない企業へ～

会社概要

会 社 名　：株式会社島精機製作所
代表取締役：島　三博
事業内容　：横編機事業
　　デザイン・システム関連事業
　　手袋靴下編機事業
従業員数　：1346名
所 在 地　：和歌山市坂田85

目指す姿・VISION

◆ 理念：
　Ever Onward – 限りなき前進
　～創造の力で未来に幸せを～
◆ MISSION：
　『世の中になくてはならない企業となる』
◆ VISION ：
　当社で培った高い技術と実績をもって、県内企業との協創を通じて世の中に良き循環を産み出し、三方よしの経営で持続可能な社会に貢献する。

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 当社はアパレル縫製機の分野で世界をリードするコンピュータ横編機を主力商品とするメーカーである。
◆ たとえば横編機の最高峰ともいえる、一着丸ごと立体的に編み上げる『ホールガーメント機』、伸縮性を抑えた新しい編地ができる『SRY』など、他社の追随を許さない製品群を抱えている。
◆ またこの技術の応用として、自動車・航空機等の産業資材分野で使用される自動裁断機事業へ進出、さらに各種自動省力化機器・システムのエンジニアリング事業も手掛けている。
◆ しかし近年アパレルファッション業界は、高価格帯のハイファッションと低価格帯のファストファッションとの二極化が進み、当社は高価格帯では他社の追随を許さないが、低価格帯商品の編み機事業においては中国からの競合も激化している。
◆ サステナビリティへの意識の高まりから古着市場も拡大し、新品衣料と競い合う時代となりつつある。すなわち耐久性も衣料に求められる重要な要素となる。
◆ 世界市場としては、中国の内需回復の遅れ、ヨーロッパの暖冬による設備投資意欲の減退、バングラディッシュの政変等、当社事業への逆風も強まっている。

VISION達成の手段

◆ DX推進チームの結成
・部門間の問題の共有：DX取組みテーマとしてピッキングの自動化を選定。
・部門を横断するチームの結成：各部門から若手を選抜しDXチームを結成。
・部分最適化から全体最適化へ：チームとしての共同作業実施。
・全社員のDXへの意識醸成：成果を各部門に持ち帰って効果を展開。

◆ 社内のDXのみならず、アパレル・ファッション業界全体のDX推進に貢献する目的で、サプライチェーン改革を目指して、デザインから製造に至るプロセスの生産性向上・コスト改善が可能なソフトウエア「APEXFiz®」を開発し、アパレルメーカーへのサブスクリプション事業を開始した。

◆ 同時に、社内で培った自動省力化機器・制御システム・管理システムの設計、製造、メンテナンス技術を活用し、県内企業を対象に、ソリューションビジネスとしてエンジニアリング事業の展開を開始した。

◆ また当社の横編み技術をモビリティ・医療・家具等の他産業への展開も図っていく。

これまでの取り組み

ホールガーメント横編機
SWG-XR

積層式自動裁断機
P-CAM R

◆ ピッキングの自動化をはじめとする生産性向上システム・アプリをノーコード・ローコードツールを活用して立ち上げ、各職場に展開した。

◆ OTRS作業分析ソフトウエア、動作分析ソフトウエアを導入し、各職場の生産性向上を図った。

◆ キントーンを利用して、現場のデータ収集システムを構築した。

◆ 取組活動におけるアイディア出し等の様々な場面において生成AI (ChatGPT) を活用した。

◆ 自動機におけるワーク認識にもAI技術を活用した。

◆ 食品サンプルのサイネージ化システムの導入により社内食堂におけるフードロスの低減を図った。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ 社外の方々とのさまざまな意見交換は社員への良い刺激となり、意識も知識も深まり、自ら提言する社員が増えた。何事も『Just Do It (やってみよう)』の精神で、知識以前に意識を持つことが重要、意識は行動を変え、習慣を変え、人生を変えていく出発点であると改めて感じた。この取り組みを全社に展開し、DXに携わりたいと考える社員を増やしていきたい。

支援者コメント

◆ 島精機製作所様は、DX推進チームを軸に作業分析やファクトリーオートメーション強化に向けた研究開発を進め、特にロボット技術を活用したピッキング自動化による業務効率化と生産性向上への歩みを加速させました。現場主体の取り組みが全社的なDX推進につながっており、今後のさらなる発展を期待しています。

(株式会社dTosh 廣田、和歌山大学 満田・土橋)

7 DXが変える新しいものづくり
～お客様の「欲しい!」を プロデュースできるパートナー企業へ～

会社概要

会 社 名　：株式会社大和化学工業所
代表取締役：大谷　正樹
事業内容　：プラスチック日用品加工
従業員数　：30名
所 在 地　：海南市岡田305-5

目指す姿・VISION

◆ 自社の創造力を活かしたプラスチック射出成形技術で
- お客様の「欲しい!」をスピーディにプロデュースできるパートナー企業へ。
- ものづくりの苦しみも喜びも分かち合える創造企業へ。
- そしてその先へ!

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 当社は射出成形技術でさまざまなプラスチック製品を受託生産している。周辺装置・治具は自社設計で、高効率・高生産性・高精度の製品を提供している。

◆ プラスチック日用品市場は中国製の輸入品も多く、EC市場も成熟している。この中で当社は汎用品市場ではなく、お客様からの受託生産を拡充していく。

◆ 受託品はその企画からデザインまでお客様と共同で開発を行う。試作の期間およびコストを抑えるため、プロトタイプの試作品を3Dプリンターで製作し、期間がかかり、かつ高価な金型の手直しを防止している。

チューリップボトル洗い

◆ 製造工程においては射出成形後の製品冷却時の変形を防ぐため、自社設計の自動冷却装置を設置している。このため他社では製造できない肉厚品が製造可能となっている。

◆ 製品の付加価値向上のため、フルカラーインクジェットプリンター、およびレーザーカッターも導入している。

◆ 受注品の他に、自社のオリジナル製品も考案し、外食チェーン等に供給している。

◆ 現在の問題点は、3つの工場が分散して稼働していることにより、情報の共有化が不十分であり、付帯作業が複雑化し非効率的であることである。社員を付帯作業から解放し、本業の創造的なものづくりに専念できる環境を構築する必要がある。

各種ブラシ製品

VISION達成の手段

◆ 属人的業務・付帯業務を廃し、本業である創造的なものづくりに専念する環境を整える
- 業務効率の向上 ⇒ 成形オペレータやバックオフィスの負担軽減
- 顧客満足度の向上 ⇒ 納期遅延、材料発注ミス、不具合発生の減少
- 風通しの良い職場環境の醸成⇒ 作業の見える化
- 予実管理の精度向上 ⇒ 生産計画の可視化

レーザカッター

これまでの取り組み

◆ 紙媒体の廃止
- ビジネスチャットツール「Chatwork」 ((株)Kubell)の活用により紙媒体での社内連絡を廃止

◆ デザイン・設計作業の効率化
- クラウド型3DCAD「Fusion」および3Dプリンターの導入

◆ カンバン式タスク管理ツール「Trello」 (Atlassian社)の導入による作業の見える化
- 手書きのホワイトボードによる受注・生産管理の廃止
- 工程進捗状況・在庫情報の全社共有化
- 受注生産管理による発注忘れの防止
- 生産履歴・予定変更などが記録として残ることによる業務の属人化の解消
- 「Trello」と「kintone」・「Chatwork」との連携による作業標準化の推進
- 全工程におけるムリ・ムラ・ムダの減少
- ボトルネックとなっている金型交換時の作業停止時間の短縮

フルカラーインクジェットプリンター

◆ 受注生産管理の自動化・運用

◆ 人材育成
- デジタルツールの導入により部門内のデジタル化に加え、部門間の情報の壁も取り払われ全社の生産効率が格段に向上した。社員がこれを体感し、全社員がデジタルツールを積極的に実践活用することにより、社員のスキルも大幅に向上した。この結果、全社員が情報や技能を共有する、オープンで若者にとっても魅力的な会社が実現できた。

◆ 当社は面積100アールのみかん農園を保有しており、これを活用するため、新事業として「みかん事業部」を立ち上げた。農業の繁忙期には社員をこれに従事させ、農閑期には工場の作業に専念させることにより、トータルの人員効率を最適化し、新たなタイプの雇用創出が可能となる。これは農業改革の一助にもなり、地域の活性化にも貢献していると考える。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ DXを進めていく上での手法や考え方が身に付き、未知のツールを知ることで参加メンバーのスキルアップが図れた。システムのPoC (実証実験)の進め方などを習熟することができた。また活動を通じて専門家や和歌山大学の先生との意見交換や指導を得ることができた。

支援者コメント

◆ 大和化学工業所様は、「企画から製品化までの一貫体制」や「現場の改善意欲」といった自社の強みを、DX推進の基盤として最大限に活かされました。生産管理のDXに着手し、現場の使いやすさを重視し、課題であった「見える化」と具体的な「効率化」を両立させることで、着実に成果を上げられました。常に現場の再現性を重視し、スモールスタートで成功体験を重ねる姿勢は、多くの企業の参考となるでしょう。

(株式会社dTosh 平井、廣田、和歌山大学 伊原)

8 全国一の梅産地・紀州和歌山の活性化をリード

会社概要

会 社 名　：中田食品株式会社
代表取締役：中田　吉昭
事業内容　：梅加工
従業員数　：300名
所 在 地　：田辺市下三栖1475-130

目指す姿・VISION

◆『社員の創造性を最大限に発揮できる職場環境づくり』
　　真のCS (顧客満足度)は高いES (従業員満足度)から。
◆『生産管理最適化』
◆『新工場建設を見据えた生産の効率化・自動化の推進』

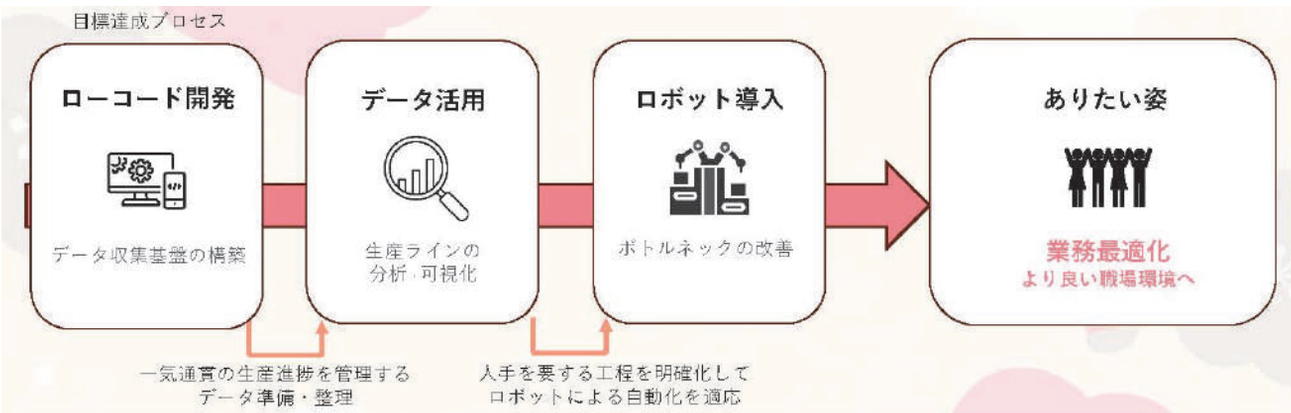
当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 梅干しの需要は、消費量の減少という課題を抱えているが、減塩商品の人気や健康効果の再評価や梅の素材を使った新機軸商品の開発など市場は新たな展開を見せつつあり、輸出を含め市場拡大の余地は十分にある。
◆ 和歌山県は全国の梅の70 %近くを生産し、梅干しの全国シェアは50%を超え、紀州和歌山の梅は全国ブランドとして確立されている。
◆ 中でも当社の梅干しの全国シェアは約20 %と全国一を誇る。
◆ しかし他の食品加工業界と同様、製造工程の機械化・自動化は遅れており、人手不足が深刻化する現在、製造工程の見直しが必要とされている。
◆ これは地域の基幹産業としての梅干し製造業の問題でもあり、当社は量の拡大を追うことはせず、新規の商品開発や、製造工程を含むサプライチェーンの質の向上を通じて、地域産業の活性化を図り、これをリードしていきたい。

VISION達成の手段

◆ 当初は、社内での困りごとの改善を実現する組織として、DX推進チームを発足した。いろいろな部署から参加したメンバーが、ボトムアップ式で解決をすすめた。
◆ 一定の成果をあげたため、全社を俯瞰して、未来を見据えた改善への取り組みを進めるため、全社のDX推進目標を『生産管理最適化』に設定し、「DX推進課」を発足させてチームを強化した。

これまでの取り組み



◆ システム・アプリの内製化によりデータ収集基盤を構築した。
- 内製アプリによる手書きの作業記録、仕入伝票のペーパーレス化・デジタル化。
- アマゾンアレクサを活用した音声による作業の効率化。
- データ一元管理による生産データの見える化。

◆ 生成AIを使ったアイディア出し、情報収集。
◆ 生産自動化・機械化の青写真策定。
◆ 梅の未利用原料を活用した新製品の開発。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ DX推進活動が社内で広く認知され、コンセンサスの強化によって部門として独立し、全社での取り組みへとつながった。

支援者コメント

◆ 中田食品様は、社内のDX推進において、製造工場現場の課題を的確に捉え、社員の皆様が主体的に改善へ取り組む文化を醸成されたことが非常に素晴らしいと感じています。DX推進チームを発足し、ボトムアップで課題解決を進めるアプローチを取られたことで、単なる技術導入にとどまらず、業務の本質的な変革につながりました。

(株式会社dTosh 平尾、和歌山大学 伊原)

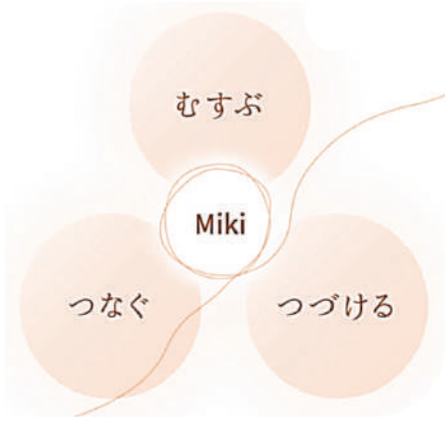
9 お菓子を通じてお客さまとの感動の共有を

会社概要

会 社 名　：株式会社Miki
(Le Patissier Miki)
代表取締役：三鬼　惠寿
事業内容　：洋菓子製造販売
従業員数　：11名
所 在 地　：和歌山市中島551-4

目指す姿・VISION

- お菓子を通じたお客様との感動の共有。
- データに基づいた安全・安心・健康な商品の継続的開発、提供。
- 五方 (お客さま・取引先さま・所属メンバー・　その家族・地域)良しの精神。



当社の強み・当社を取り巻く事業環境

- 当社は洋菓子の製造販売店として、その商品開発力と製造技術力に強みを持つ企業である。特に地元生産者と専属契約を結ぶ等、地域貢献を行い、地元紀州産原材料を使用した独自の商品の開発・提供も行っている。
- 当社は大切なお客様の、食の安全・品質を守るために、科学的根拠に基づき、食品衛生法・食品表示法等の法令を厳格に遵守している。現在HACCPの取得を目指している。
- しかし洋菓子業界では大資本による新規進出、既存の中小規模店の囲い込みが進み、こうした傘下店舗では通販や単商品販売が目立ってきている。
- 近年、消費者も利便性を重視し、タイパ・コスパの良いコンビニスイーツや、通販による冷凍品の購入が増加している。
- さらに業界の垣根を超えた菓子製造販売への進出も増えている。これを受け、新規性を求める地域では顧客離れも見受けられ、当社も対策を講じる必要がある。

VISION達成の手段

◆ 手動で行っていたルーチンワークをシステム・ツールの導入により自動化し、余剰時間をVISION達成のための時間に振り当てる。
- データに基づいたマーケットインの商品開発。
- POSデータに補助データを加えた顧客分析手法を外部教育機関と共同で開発。
- 原理原則・科学的根拠・法令に基づいた商品企画書を作成し、新商品の投入にKPIを重視した手法を導入。
- ECサイト受注を含む販売ルートの拡張。
- SNS活用を始めとした多様な媒体による情報発信。
- 顧客体験による顧客ニーズのインサイト抽出。

これまでの取り組み

◆ システム・アプリの内製化により、日常業務の自動化を図った。
- デジタル出勤簿兼自動給与額面計算
- 賞味期限管理表、生産管理表、HACCP関連デジタル記録表
- インボイス対応見積書・納品書・請求書
- 社内情報共有化システム
- 商品規格書・製造配合表、商品企画書
- 原価計算書
- 社員スケジュール管理表

◆ 公的WEBシステムやWEB共有ファイルを活用して、労務管理など公的申請・会計事務所との事務作業をデジタル化した。
取引先関係とはWEB発注システムを積極的に導入している。

◆ これらの自動化により捻出した時間をDX推進に振り当てている。

◆ 従業員の知識向上・スキルアップは、DX推進において必須である。
このため、地元の高等教育機関と産学協定し、リアル教材の作成を行っている。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ 企業の経営に役に立つデータとは何か？ということを具体的に学び、将来のデータドリブン経営実現への道が見えてきた。

◆ 従業員のDX実現への関心が高まり、知識習得の意欲が芽生えた。

支援者コメント

◆ 株式会社Miki様は、内製システムとデータ分析を駆使し、業務自動化を効率化に留めず、経営ビジョンの実現へと結びつけている点が秀逸です。今後、顧客データ活用、システム連携強化、デジタルスキル向上をさらに進めることで、地域特産×デジタル技術の融合としてのモデルケースになって頂ければと思います。　(株式会社dTosh 廣田、和歌山大学 伊原)

10 繁盛づくり人づくり
～永続可能な飲食店創造業へ～

会社概要

会 社 名　：株式会社リカーショップゴワ
代表取締役：後和　信英
事業内容　：業務用酒類・食品の卸売
従業員数　：36名
所 在 地　：和歌山市砂山南1-1-9

目指す姿・VISION

◆『永続可能な飲食店創造業へ』
- 飲食店の“効率化”サポートによる生産性向上を通じて、当社との連携を深め、「お店づくりから支えるパートナー」として効率の良いサプライチェーンを構築する。
- 社内業務をデジタル化して、業務の標準化・効率化を実現し、従業員はより価値の高い業務に集中し、データ活用による顧客飲食店への新たな価値の提供を促進する。

当社の強み・当社を取り巻く事業環境

◆ 当社は1924年の創業以来100年余、飲食産業サプライチェーンの川上産業としてさまざまな飲食店とともに培ってきたノウハウや経験を活かし、単なる納品業者ではなく、「お店づくりのパートナー」として新規開店支援、既存のお店の集客・売上向上、業務改善など、多角的に経営支援を行ってきた。お店の現状分析、コンセプト企画、メニュー制作、マニュアル整備など、支援項目は多岐にわたっている。

◆ コロナ禍を経て、現在飲食産業は、テイクアウト・デリバリー需要の増加、若者のアルコール離れによる市場の縮小、人手不足・原材料高騰といったさまざまな困難に直面している。

◆ こうした中、飲食店は生き残るために経営資源をコアビジネスに集中し、非効率なノンコアビジネスである受発注・請求処理などの事務作業をデジタル化により改善していかねばならない。

◆ こうしたシステムの改善は飲食店だけでは行えず、当社がパートナーとして飲食店と共に最適なシステムを構築して、はじめて実現できる。

◆ しかし、これまで当社の営業チームは社内の事務作業に時間をとられ、顧客に十分な付加価値を提供できていないという問題があった。

VISION達成の手段

◆ デジタルツールの活用により社内業務の標準化・効率化を図る。これにより従業員が、顧客に価値の高いサービスを提供する業務に集中できる環境が構築される。
- Google Workplaceを用いた社内業務の効率化。
- ノーコードアプリ開発 (Google AppSheet)による業務フローの最適化。
- WEB受発注システムの構築による業務効率化と顧客体験価値の向上。
- Looker Studio (Google)を用いさまざまなデータ分析を効率化する。

これまでの取り組み

◆ Google Workplaceを活用し、具体的な業務の課題を洗い出し、改善して効率化ができた。
◆ 定性的な業務をAppSheetで見える化しムリ・ムダを具体的に認識することで業務フローを大きく改善した。
◆ 受注・請求処理の自動化により、事務作業時間が大幅に短縮された。
◆ その結果、営業管理事務を管理部へ移行し、営業部員を顧客への付加価値提供業務に専念させることができた。
◆ 社内のコミュニケーションも円滑化され、例えば顧客の新規開拓に関しても、営業部員はキャッチした情報をすぐに営業部に提供し、Looker Studioでデータ分析を行い、新規の営業機会を創出することも可能となった。
◆ 管理部の既存業務工数の最適化・脱属人化への取り組みを開始している。

DXチャレンジサポートへ参加して思うこと

◆ DXの必要性を社内で再認識することができた。具体的な業務改善のヒントを得ることができ、業務フローの見直しを始めとするさまざまな業務改善を行うことができた。ただし、デジタル導入を進める上での社内の教育・浸透に時間がかかり、この点改善の必要があった。

支援者コメント

◆ リカーショップゴワ様は、厳しい業界環境を乗り越えるため、「永続可能な外食店創造業」という使命をDX推進の軸に据えられました。専務取締役の強いリーダーシップのもと、現場の反発にも丁寧に向き合い「小さな成功体験」を積み重ねることで、単なるツール導入に留まらず、企業文化そのものの変革へと繋げられたプロセスは大変素晴らしいと感じています。

（株式会社dTosh 平井、廣田、和歌山大学 満田）

【支援者紹介】

紀陽銀行

紀陽のITコンサルティングで
課題を解決してみませんか？

紀陽のITコンサルティングとは？

地域のお客さまの「IT」に関する経営課題に対し
紀陽のグループ総合力・ノウハウを活用し、課題解決に向けた支援を行います。

紀陽銀行公式キャラクター
キヨー坊や®

紀陽のITコンサルティングの特長

01 「貴社の立場」で、「貴社とともに」。ITにかかる課題を解決する**伴走型支援!!**

02 紀陽情報システム（株）も含めたグループ総合力。**多数の協業企業**が、貴社をサポート!!

03 銀行の**事業課題を把握する目利き力**により、貴社の課題を解決に導きます!!

（株）紀陽銀行と紀陽情報システム（株）が一体となり、貴社をサポートします！

その 課題 不安 紀陽のITコンサルティングなら解決できます！

システム課題
- 老朽化したシステムの維持・更改が難しい
- サポートが終了したシステムの保守が難しい
- システムの使い勝手が悪く、社員からの不満が多い

業務効率化
- 業務が煩雑で、非効率。どうすれば効率がよくなるか分からない
- 手作業が多く、ミスが多い
- 部門間の連携が上手くいかず、伝達漏れや遅延が発生している

人材不足
- システムに精通した人材がいない
- 業務が属人化し、世代交代が難しい
- 社内DXを推進する旗振り役がいない

株式会社 紀陽銀行
ソリューション戦略部 ITコンサルティングデスク
TEL 072-221-1263

【支援者紹介】

株式会社dTosh

会社概要	会社名　：株式会社dTosh 代表取締役　：平尾 俊貴 事業内容　：AI/DX人材育成、AIシステム開発、コンサル事業 従業員数　：15名 所在地（本社）：京都府相楽郡精華町光台 1-7 けいはんなプラザ （支社）：東京都千代田区永田町2-4-11フレンドビル3F

Service

AI/DX推進人材を育成して、自社内で加速的に推進できる人材内製化を伴走いたします。具体的には、ゼロから分かるAI/DX利用者研修、 AI/DX推進リーダーシップを実践通して習得するワーク型実践研修、AIエンジニアを育成する最先端のテクニカル研修など豊富なパッケージがございます。

自然言語処理から機械学習、ビッグデータ分析まで、多彩なAI技術を駆使し、お客様固有の課題に対して卓越したソリューションを提供します。また、自社プロダクトであるdTosh GAIでは、あらゆるビジネスシーンにおいて業務効率化や生産性向上を生み出す次世代のAI活用法を実現します。

最先端のAI技術と洗練されたビジネスインサイトを融合させ、革新的かつ実践的なAI/DX戦略コンサルティングを提供します。戦略立案から課題分析、システムアーキテクチャの設計に至るまで、ワンストップで貴社のDX (デジタルトランスフォーメーション)を強力に推進します。

dToshの強み

産学連携を通じた最先端の叡智

世界の一流大学との密接な共同研究を通じて、理論と実践を融合し、唯一無二の革新的なAIソリューションを生み出します。

業界最高峰の開発チーム

国内外のトップ大学や一流企業出身の精鋭エンジニアたちが、最先端AI技術を駆使し、未来を切り拓く革新的ソリューションを創出します。

自社プロダクト dTosh GAI

AI導入から内製化まで「本当に活用できる生成AI」を共に実現。社内問い合わせを生成AIが自動回答いたします。

ワンストップ伴走支援

AI導入から内製化まで、経験豊富なAI専門家チームがワンストップ伴走いたします。現場で本当に活用できる生成AI」を共に実現できます。

個社カスタマイズ

標準機能に加え、各社に応じた機能を独自搭載することが可能です。オンプレ環境も用いたハイブリッドクラウド運用も可能です。

高いセキュリティ要件とAI回答精度、そして充実した伴走支援体制が評価されており、大手企業や上場企業、金融機関などに豊富な導入実績と専門ノウハウを持ちます。

【支援者紹介】

国立大学法人和歌山大学

産学連携イノベーションセンター

Center for Innovative and Joint Research

wakayama univ.

その課題、
和歌山大学と一緒に
解決しませんか？

https://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/

研究者のマッチングをしています

受託研究・共同研究・学術指導のマッチング

企業や各種団体からの相談をうけ、適切な研究者を選定して紹介するとともに、良好な連携が維持されつつ研究がスムーズに進行し、成果が得られるようアドバイスします。大きく分けて以下の4つの産学連携の制度があります。

産学連携の制度について

（詳細はお問い合わせください）

学術指導

研究者がその専門的知識に基づき、助言、講習、簡便な調査等を行うことで、それぞれの業務活動を支援します。共同研究や受託研究に向けて大学との連携の第一歩としてご利用いただけます。

共同研究

企業からの研究経費を受け入れ、本学の研究者と企業の研究者が対等の立場で共通の課題について研究を行います。

受託研究

企業の側に研究者がいない場合に、企業からの課題とともに委託費・研究経費を受けて本学の研究者が研究を行います。

共同研究講座

企業等が大学内の組織として講座（研究グループ）を設置し、共通した課題について、一定期間継続的に共同で研究を行います。

情報発信をしています

研究シーズ発表会・オープンラボ開催

本学の研究者の研究シーズを多くの方々に知っていただくために研究シーズ発表会を開催したり、実際に研究している現場を見ていただくためにオープンラボを開催しています。また他の機関の主催するシーズ発表会で本学研究者が自身の研究を強くアピールできるようサポートをしています。

研究交流会開催

地域産業との連携強化と発展への寄与を目指し、同じ専門分野の本学研究者と企業の技術者が意見交換を行う研究交流会を企画・開催しています。これまでに、化学系の交流会とロボットに関する研究会を立ち上げています。今後もニーズのありそうな専門分野で研究会を立ちあげていく予定です。

研究シーズ集

本学の研究者の研究シーズを冊子にまとめた『Seeds Index』を作成し、イベント等で配布しています。理系だけでなく文系の研究者の研究シーズも掲載しています。冊子と同じ内容を産学連携イノベーションセンターのWebページにも掲載しています。

https://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/seeds/

分析機器を使っていただけます

研究機器共同利用

本学が所有する分析機器などの研究機器を、条件が合えば学外の方にも有料で使っていただくことが可能で、その際の研究者との調整を担当します。利用可能な機器の一覧や手続きの方法はWebページをご覧ください。

https://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/sangaku/jointuse/

研究機器共同利用

新たな支援制度：共同研究スタート支援

現在、産学連携イノベーションセンターでは、本学研究者との連携がスムーズに始められるように、共同研究のスタート支援に取り組んでいます。共同研究を開始するにあたり、企業に研究費の捻出が難しい場合には、大学が費用を一部負担する支援制度を用意しています。本学研究者が研究代表者であること、予算配分額に上限があることなどいくつか条件がありますが、共同研究による連携を試してみたいとお考えであれば、是非活用してください。

化学系交流会

和歌山県域の化学関連企業から協力を得て、本学の化学系研究者と年に数回、交流会を開催しています。本学研究者から研究シーズの紹介や、企業からの活動紹介や話題提供のあと、活発な意見交換が行われています。本学キャンパスで開催した時にはラボの見学ツアーも行われます。この交流会から新たな共同研究の芽も生まれました。

和歌山県
DXチャレンジサポートプログラム
参加事業者一覧（五十音順）

年度	事業者	所在地	支援者
2022年度	株式会社イワハシ	海南市	紀陽銀行
	紀和化学工業株式会社	和歌山市	
	株式会社玉林園	和歌山市	
2023年度	株式会社島精機製作所	和歌山市	株式会社dTosh 国立大学法人和歌山大学
	中田食品株式会社	田辺市	
	株式会社Miki	和歌山市	
2024年度	河合石灰工業株式会社和歌山工場	和歌山市	
	有限会社三和金型製作所	和歌山市	
	株式会社大和化学工業所	海南市	
	株式会社リカーショップゴワ	和歌山市	

【発行】2025年5月
和歌山県商工労働部企業政策局企業振興課
〒640-8585　和歌山市小松原通一丁目1番地
TEL：073-441-2760　FAX：073-424-1199

公益財団法人 わかやま産業振興財団
地域活性化雇用創造プロジェクト
〒640-8033　和歌山市本町二丁目１番地 フォルテワジマ６階
TEL：073-433-8556　FAX：073-433-8557
E-mail：chi-pro@yarukiouendan.jp

禁無断複製・転載

VEGETABLE OIL INK
この印刷物は地球環境に優しい
植物油インキを使用しています。